

### 1. はじめに

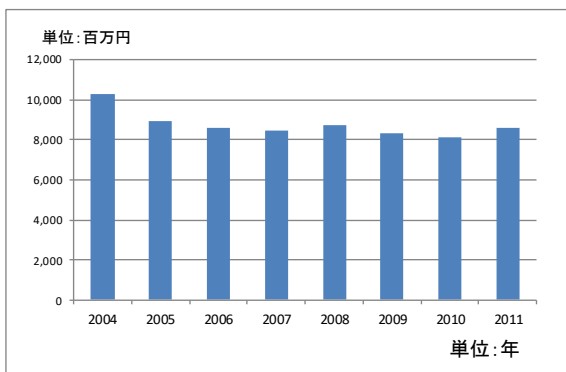
国内における競馬場の運営は大きく二種類に分けられている。一つは財団法人日本中央競馬会が運営している中央競馬、もう一つは地方自治体が運営している地方競馬がある。今日における競馬業界の売り上げは年々減少傾向にある。特に地方競馬は不景気もあり、その影響を大きく受けている。地方競馬の運営は県や市が運営しているため、経営不振に陥った場合、廃止になることが多い。石川県にも地方競馬の金沢競馬場があるが、この競馬場も例外ではなく、経営は苦しい現状である。

### 2. 目的

金沢競馬場においても、石川県と金沢市が運営しており、経営破綻を避けるために補填を続けている。地域経済にもかかわることであり、金沢競馬場の黒字化は重要な問題である。そこで、本研究では、金沢競馬場の活性化案の事例を調査し、その活性化に向けた施策の是非について考察することを目的としている。

### 3. 分析

金沢競馬場の売り上げ数を確認するため、金沢競馬場が経営改革を行った前後 6 年の売り上げを調べた。金沢競馬場が県や市が策定した「経営改善計画」による経営方針の変更やソフト事業が 2008 年から行われた。図 1 を見ると経営改善計画が実施された 2008 年の売り上げは少し減少しているが、翌 2009 年には若干のプラスとなっている。しかし、2010 年の来場者数は 2008 年比で



出所：石川県・金沢市(2007)「金沢競馬経営改善計画初年度について」

<http://www.kanazawakeiba.com/pdf/20080624.pdf> (アクセス年月日：2013 年 11 月 27 日) その他データより

図 1：金沢競馬場の売上金推移

12%減となっている。

図 1 の 2008 年から 2010 年のグラフを見ると、来場者数の減少率が売上金額の減少より大きいことが分かる。このことから新規の来場者が入らず、固定客も年々離れて行っていることが推測される。

### 4. 分析

経営改善計画に基づいて、金沢競馬の活性化を目的として「金沢ちびうま団」と呼ばれる団体を設立した。具体的には、幼稚園や小学校で乗馬体験を行ったり、金沢競馬場以外で開催の日にポニーレースを開催するなどしている。またその中には小学生の騎手もおり、活躍をしている。

### 5. 考察

金沢ちびうま団の活動により、ファミリー層の集客は今後増えていくことが期待できるようになった。しかし、現状の来場者数の減少を鑑みると今後はファミリー層向けだけでなく、シニア層や女性の来場者を増やす試みも必要である。東京都にある大井競馬場では女性を対象としたイベントの開催をしている。その一例として 8 月 14 日の第 12 競走にてドラマ「SUMMER NUDE」とコラボして同タイトルのレースを開催した。またこの日はゲストとして出演者の「香里奈」さんを招き、トークショーも開催した。

このようなイベントの開催により、競馬に興味がない人にも関心を持ってもらい、ファン層を拡大することが重要であると考えられる。

### 6. まとめ

競馬は娯楽施設の一つであるが、未だ賭博場としての印象は強い現状ではある。しかし、競馬を見ることで楽しみたい人のための活動も行っており、近年では老若男女が楽しめるようになってきている。県や市が運営している金沢競馬場の経営破綻を避けるためにも、家族連れなどといった競馬にこれまで関心が無かった来場者が増えるようにすることが、今後求められる。

### <参考文献等>

・金沢ちびうま団 HP(アクセス年月日：2013 年 11 月 27 日)

<http://chibiumadan.is-mine.net/index.html>

・大井競馬場 HP(アクセス年月日：2013 年 11 月 27 日)

<http://www.tokyocitykeiba.com/news/5466#ev01>

・金沢競馬場 HP(アクセス年月日：2013 年 11 月 27 日)

<http://www.kanazawakeiba.com/>